

目 次

I	テーマ設定の理由	26
II	研究目的	27
III	研究仮説	27
IV	研究構想図	27
V	研究内容	28
	1 「外国語科で育成すべき資質・能力」について	
	2 「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」について	
	3 「授業実践の具体的な方法」について	
VI	授業実践	31
	1 単元の概要	
VII	結果と考察	42
VIII	成果と課題	49
	1 成果	
	2 課題	
IX	参考文献	50

<中学校 英語>

主体的に学ぶ自律的型学習者の育成を目指した授業改善

～プロジェクト型学習（PBL）の実践を通して～

宮古島市立鏡原中学校 教諭 渡真利 彩

I テーマ設定の理由

現代社会は、Volatility（変動性）・Uncertainty（不確実性）・Complexity（複雑性）・Ambiguity（曖昧性）の頭文字を取ってVUCA社会と表されるように、感染症などの疾病や台風・地震などの災害、またAI技術の高度化やグローバル化が急速に発展する中で、今後ますます予測困難な社会になっていくと予想される。

このような社会情勢の中で、主体的に学ぶ生徒の育成は学校教育における最重要課題であると考えられる。しかし、これまでの実情を鑑みると、「生徒の英語学習に対する意欲の高まり」や「外国語によるコミュニケーションに対する抵抗感の低下」等は実感しているものの、まだまだ「主体的に学ぶ態度の育成」には課題を感じている。新渡戸文化中学校・高等学校英語科教諭の山本高雄氏は、著書である「教えない授業」において、「教育現場の最上位の目標は『さまざまな課題に果敢に挑むことができる自律型学習者(self-directed student)を育成していくこと』である」と言及しており、「自律型学習者」とは「自ら課題を見つけ、時に協働しながら解決手段を選択し、自分なりの答えを出していくことができる学習者」として定義されている。これは、筆者が目指す主体的に学ぶ生徒像も同じであると捉え、本テーマを設定した。

また、中学校学習指導要領解説（外国語編）では、外国語を学習する際に、単に外国語を使用してコミュニケーションを取ることができるようになることが目標ではなく、「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」を働かせることが大切であることが明示されている。子どもたちは、この「見方・考え方」を確かめ豊かなものとすることで、学ぶことの意味と実生活、人生や社会、世界の在り方を主体的に結び付ける学びが実現され、学校で学ぶ内容が、生きて働く力として育まれることになることとされている。

これまでの授業実践を振り返ると、生徒一人ひとりの主体的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度・意欲を十分に育むことができなかった。その要因として、著者の授業が「知識・技能」の定着の域に止まっていたこと、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて「コミュニケーションにおける見方・考え方」を働かせ、表現し伝え合う言語活動が少なかったことがあげられる。

そこで本研究では、毎單元ごとに単元を貫くプロジェクトを設定し、プロジェクトを通して生徒一人ひとりが社会や他者へ貢献することを目的として、「コミュニケーションにおける見方・考え方」を働かせながら、有意義な言語活動ができるようにする。また、生徒たちが「自分の学んだことが社会とつながっている」「学んだことを生かして、他者と交流することができる」という実感・自信を持てるように支援する。さらに、プロジェクトに取り組む際は、「コミュニケーションにおける見方・考え方」を働かせて、主体的に

言語活動に取り組むことができるよう、生徒がプロジェクト達成に向けて自らの学びを選択・調整するための*足場かけを行うような単元デザインを考えるとともに、生徒がICT機器を活用し、自己の学びを振り返りながら「メタ認知能力」を高められるような授業改善に取り組む、主体的に学ぶ自律型学習者の育成を目指していく。

(*足場かけ：scaffolding – その子に合った支援をすることを指す。詳しい解説は、「V研究内容3(2)」を参照。)

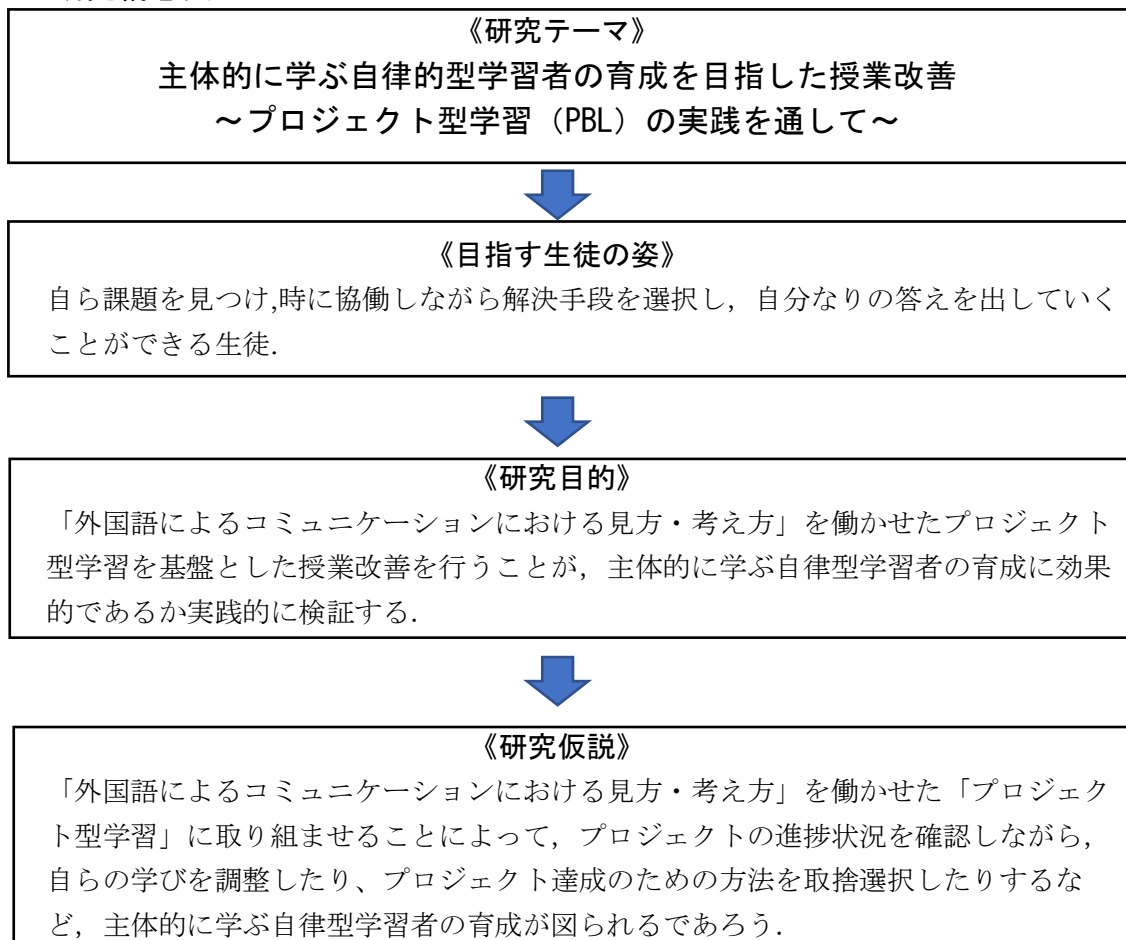
II 研究目的

「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」を働かせたプロジェクト型学習を基盤とした授業改善を行うことが、主体的に学ぶ自律型学習者の育成に効果的であるか実践的に検証することを目的とする。

III 研究仮説

「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」を働かせた「プロジェクト型学習」に取り組ませることによって、プロジェクトの進捗状況を確認しながら、自らの学びを調整したり、プロジェクト達成のための方法を取捨選択したりするなど、主体的に学ぶ自律型学習者の育成が図られるであろう。

IV 研究構想図



《研究内容》

- 1 「外国語科で育成すべき資質・能力について」
- 2 「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」について
- 3 「授業改善の具体的な方法」について
(1) プロジェクトの設定・動機付けの工夫 (2) 学びの足場かけの工夫
(3) 生徒が自ら学びを調整できるようになるための工夫 (単元計画の共有等)



《授業改善の視点》

- 1 「教室で学んだことが実生活とつながっている」という実感を持たせるためのプロジェクト内容を設定し、学習意欲を高めさせる。
- 2 外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせられるような活動を設定し、生徒の深い学びを促す。
- 3 生徒の学習への足場かけをしっかりとし、知識・技能を定着させる。

V 研究内容

1 「外国語科で育成すべき資質・能力」について

中学校学習指導要領（平成 29 年告示解説）外国語編には、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力」、「学びに向かう力、人間性等」の 3 つの柱が示されている。「知識及び技能」とは、外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能等。「思考力、判断力、表現力」とは、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることなどができる力等。「学びに向かう力、人間性等」とは、外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度等とされている。

この 3 つの資質・能力の柱は、「生徒が主体的に学ぶ自律型学習者となる上で欠かせない 3 つの力」だと筆者が念頭に置いて指導に取り組むことで、今後の授業改善に生かしていきたいと考えた。

2 「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」について

中学校学習指導要領（平成 29 年告示解説）外国語編では、「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」について、「外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築することであると考えられる」と示されている。

また、「この『見方・考え方』を確かで豊かなものにするすることで、学ぶことの意味と自分の生活、人生や社会、世界の在り方を主体的に結び付ける学びが実現され、学校で学ぶ内容が、生きて働く力として育まれることになる」とある。

つまり、授業作りにおいて、生徒の「見方・考え方」を豊かで確かなものにする
ことで、生徒が学んだ内容が自分の人生をより良くし、他者との関わりの中で生かされる
ものとなると実感することができ、その実感が更なる学習意欲の向上につながり、生徒
の学習はより主体的で自律的なものになるのではないかと考えることができると筆者は
解釈した。

そのような観点からも、授業において、教科の特性に応じた「見方・考え方」を身
つけられることが主体的に学ぶ生徒を育成する上で必須条件だと捉えることができる。

3 「授業改善の具体的な方法」について

まず、筆者のこれまでの授業実践を省察した際の「気づき」をもとに、授業改善の視
点について考えてみた。これまでも、生徒のアンケート等において、「英語の授業は楽し
い」と感じている生徒の割合が、8～9割と高い水準を保っていた。しかし、授業や英語
学習に対する姿勢を観察していると、「楽しい」と答えているにも関わらず、活動の内容
によって意欲のばらつきや、主体的に取り組む態度などに課題を感じた。その原因を深掘
りしてみると、生徒は「ゲームが楽しい」「タブレットをよく使うから楽しい」など、た
だ「学ぶ手法」に着目して「楽しさ」を感じていただけで、英語学習そのもののプロセス
を楽しんでいないことに気づいた。それが本文読解や、プレゼンテーションなどの課題に
なったとたんに、学ぶ意欲が低下する要因となっていた。それは、筆者の授業作りにお
いて、「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」を働かせられるような課
題設定がなされていなかったこと、また、「学ぶプロセス」に価値付けがされず、「学ぶこ
とそのもの」を楽しめるような実践になっていなかったことが原因であると気づいた。こ
の「気づき」が、「これまでの指導観」を根本から転換するきっかけとなり、「主体的に学
ぶ自律型学習者の育成を目指した授業改善～プロジェクト型学習（PBL）の実践を通して
～」という研究テーマの設定にも繋がっている。自律型学習者の育成にあたって、「プロ
ジェクト型学習」を取り入れようと思った理由は、各単元において、生徒がプロジェクト
達成を目指すことで、協働的に学びながら、自分の個性や得意なことを生かして、外国語
を学ぶ楽しさを実感でき、主体的・自律的に学ぶ姿勢を育むことができると考えたからで
ある。プロジェクト型学習の利点として、①単元のゴールに、「目的・状況・場面」がし
っかりと設定された他者との交流の機会があることで、単元で学ぶ内容が実際に生きて働
く学びとなること、②交流相手の立場や要望を考えながら伝える内容を工夫することで、
「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」をしっかりと働かせることが
できること、③グループで協働しながら、目標達成に向けてのタイムマネジメントや、自
分に合った学習スタイルなどを調整できること、そして何より、④「自分が学ぶことで、
誰かの役に立つことができる」、「学びが社会や実生活と繋がっている」という実感が持て
るであろうと筆者は考えた。

そこで、授業改善の視点に関して、ここでは、授業改善の具体的な方法について、以下
の（1）～（3）の順で述べる。

- | |
|--|
| (1) 「目的・状況・場面」を明確にしたプロジェクトの設定・動機付けの工夫
(2) 思考力・判断力・表現力を支える基盤となる、学びの足場かけの工夫
(3) 生徒が自ら学習計画を立てるための工夫（単元計画の共有等） |
|--|

(1) 「目的・状況・場面」を明確にしたプロジェクトの設定・動機付けの工夫とは
プロジェクトの設定に当たって、どのようなポイントに留意したらよいか、以下の3点を捉えた。

- ①生徒の興味・関心沿っている内容か、または実生活に繋がる身近な内容か
- ②このプロジェクトを達成することで、交流相手に貢献することができる内容か
- ③生徒が「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」を働かせることができる内容か

以上の3点に留意して単元のゴールであるプロジェクトを設定することによって、生徒たちが「自らチャレンジしてみたい」と思う気持ちを高めることができる。また、プロジェクト内容をただ教師から発表するのではなく、実際の交流相手に授業に来てもらい、生徒たちに直にお願いしてもらったり、ビデオレターを送ってもらったりすることで、プロジェクトをより切実感を持って取り組むことができると同時に、プロジェクトの達成に向けて、生徒のワクワク感や、学習意欲を高める効果があると考える。このため、プロジェクト内容の設定のみでなく、単元の導入をしっかりと演出し、生徒の単元への興味・関心を高めることを意識しながら、単元全体を通して生徒一人ひとりの学習意欲・態度を維持できるよう創意工夫を図っていきたいと考えた。

(2) 思考力・判断力・表現力を支える基盤となる、学びの足場かけの工夫とは

プロジェクト型学習を実施する際に必要となってくるのが、生徒の思考力・判断力・表現力である。しかし、生徒が思考力・判断力・表現力を活用するためには、基礎的・基本的な知識・技能の定着が欠かせない。旧ソ連の心理学者であるレフ・ヴィゴツキーも、「子どもたちの学びを促進させるためには、大人の『足場かけ』

(scaffolding – その子に合った支援をすること) が重要である」と指摘している。そこで、筆者が考える足場かけとして、生徒が文法のルールや新出語彙の意味などを、実際に活動の中で使用し、自ら予測したり、発見したりしながら、定着に結びつけていくことを意識して取り組んだ。ただ、気を付けなければならないのが、知識・技能の定着のための活動が、ただ教師のあとについて繰り返すだけの単調な活動にならないように、生徒たちがターゲットとなる文法や語彙を使ってコミュニケーションを行う必然性のある活動(例: 友達や自分に関するクイズを作る活動、インフォメーションギャップを利用した活動、プラスワンセンテンスのコミュニケーション活動)などを設定しながら、生徒の学びの定着を図ることが大切であると考えた。

(3) 生徒が自ら学びを調整できるようになるための工夫(単元計画の共有等)とは

筆者が目指す自律型学習者とは、「I テーマ設定の理由」でも述べたように、「自ら課題を見つけ、時に協働しながら解決手段を選択し、自分なりの答えを出していくことができる学習者」と定義している。そのために、生徒が授業の1時間1時間を、「教師に与えられた課題を細切れにこなすもの」と捉えるのではなく、「プロジェクト達成に向けて、着実に学びを積み重ねていくための一連の流れ」として捉えながら、自分の学びが目標達成に向けてどの程度進んでいるのかを確認・調整して進めて

いけるようにサポートする。那須正裕氏は著書の「個別最適な学びと協働的な学び」の中で、「授業を含め、学校生活はすべて、子どもと教師が協働で創り出していくもの」とし、学びに関する「徹底した情報開示が原則」と述べており、筆者も単元計画を生徒たちと共有した上で学習を進めることで、時には生徒たちから活動のアイデアを出してもらったり、活動の改善策を考えてもらったりと、教師と生徒の協働的な授業作りを目指した。またそれには、生徒が安心して率直な意見を述べられるように、心理的安全性の高い教室作りを心がけた。生徒が「わからない」と素直に言える、「間違えても大丈夫」と感じられる関係性を築くことで、生徒が伸び伸びと主体的・自律的に学ぶことができると考えた。

VI 授業実践（第1学年）

1 単元の概要

実践①（2023年11月中旬～12月中旬）

単元名	Here We Go! ENGLISH COURSE 1 (光村図書) Unit 6 Cheer Up, Tina
指導事項	3 人称単数を主語とする一般動詞を使った肯定文・疑問文・否定文
単元の目標	(1)身近な人について、三人称単数を用いて紹介文を書くことができる 【知識・技能】 (2)身近な人について、読み手に興味を持ってもらえるように、内容や構成を工夫しながら、紹介文を書くことができる 【思考・判断・表現】 (3)身近な人について、読み手に興味を持ってもらえるように、内容や構成を工夫しながら、紹介文を書こうとしている 【学びに向かう人間性等】
プロジェクト内容	忙しくて、なかなか先生方と話す機会のないALTの先生のために、先生紹介図鑑を作ってプレゼントしよう!

実践②（2024年1月初旬～2月初旬）

単元名	Here We Go! ENGLISH COURSE 1 (光村図書) Unit 7 New Year Holidays in Japan
指導事項	一般動詞の過去形を使った肯定文、疑問文、否定文 be 動詞の過去形
単元の目標	(1)冬休みの出来事や感想などを伝える文章を書くことができる 【知識・技能】 (2)交流するキンザー小学校の児童に興味を持ってもらえるように、内容や構成を工夫しながら、冬休みの出来事や感想を伝えることができる 【思考・判断・表現】 (3)交流するキンザー小学校の児童に興味を持ってもらえるように、内容や構成を工夫しながら、冬休みの出来事や感想を伝えよう

	としている	【学びに向かう力・人間性等】
プロジェクト内容	キンザー小学校のみんなから届いた「お正月」に関する質問に、わかりやすく答えてあげよう！	

実践③（2024年2月中旬～3月初旬）

英語科学習指導案

日 時：令和6年2月20日（火） 5校時
 学 級：宮古島市立鏡原中学校 1年1組（22名）
 授業者：渡真利 彩

個人研究テーマ
「主体的に学ぶ、自律型学習者の育成」 ～プロジェクト型学習（PBL）を通して～

1 単元名 **Here We Go！ ENGLISHCOURSE 1** （光村図書）
 Unit 8 Getting Ready for the Party

2 単元の目標

- (1) 写真の説明から、その状況を聞き取ることができる 【知識・技能】
 (2) 鏡原小の6年生に向けて、相手に興味を持ってもらえるように、内容や構成を工夫しながら、学校紹介をすることができる。 【思考・判断・表現】
 (3) 鏡原小の6年生に向けて、相手に興味を持ってもらえるように、内容や構成を工夫しながら、学校紹介をしようとしている。 【学びに向かう力・人間性等】

3 単元について

(1) 教材観

生徒は、本単元を通して、中学校学習指導要領（外国語編）に示された言語活動「聞くこと」の「イ はっきりと話されれば、日常的な話題について、必要な情報を聞き取ることができるようにする」と、「話すこと（発表）」の「イ 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができるようにする」を行う。また、言語活動（イラストや写真の状況説明をしたり、聞いたりする活動）を主体的に取り組み中で、現在進行形の文構造を学ぶことができる。

生徒たちは、Unit 4で **I like dancing.**などの表現を学んできており、動詞に **ing** がついた形には馴染みがあるが、本単元ではそれが **be** 動詞と共に用いることで、現在の状況を説明することができる表現になるということも理解する。また、Unit 4の動名詞としての働きとは違った動詞 **ing** の働きを、目的・状況・場面をしっかりと捉えさせることにより、活用しながら、身につけることができる教材となっている。さらに、自分の感想などを述べるための **looks**～などの表現も同時に学ぶことができ、共通の事柄を見たときにそれぞれの感じ方などを、表現することができるようになる。

このように、生徒は、本単元で現在進行形や looks～などを用いた会話や状況説明の仕方といった「知識・技能」、それを活用・発揮して英語による状況説明から必要な情報を読み取るとともに、プロジェクトとして、「思考力・判断力・表現力」を働かせながら、交流相手の鏡原小学校6年生に、興味を持ってもらえるよう写真やイラストを工夫しながら学校紹介をする。その際、交流相手に楽しんでもらえるように、主体的にコミュニケーションを取ることで、「学びに向かう力・人間性等」を育む。

(2) 生徒観

本学級は、知的好奇心が強く、明快に授業に取り組むことのできる学級である。ペアワークやグループ学習においても、お互いに協力し、意欲的に活動に参加しようとする姿勢が見られる。全体場で発言をすることには、やや躊躇することもあるものの、言語活動やプロジェクトには熱心に取り組んでおり、発表材料として主体的にクラスにアンケートをとるなど、活動に対する創意工夫がよく見られる。単元ごとに実施したアンケートでは、「英語を学ぶことが好き・どちらかと言えば好き」と答えた生徒が1回目88.9%、2回目88.5%、3回目90.5%と英語学習に対して意欲的であることが見てとれる。また、好きと答えている理由が1回目のアンケートでは、「タブレットを使うから」「ゲームが楽しいから」という表面的な理由から、単元が進むにつれて、「考えるのが楽しいから」「友達と交流があるから」「英語を理解することができたら、達成感があるから」などの「学ぶことそのもの」の楽しさや達成感を実感している様子が見えてくる。しかし一方で英語学習の困り感として、「スペルが難しい」「長い文章が難しい」などをあげている。コミュニケーション活動に関しては、「間違っても大丈夫という安心感がある」と答えている生徒もおり、多くの生徒が安心して伝え合う活動に積極的に参加できていると感じているので、安心してコミュニケーションを図れるような、支持的風土作りが重要である。

今後は次のステップとして、「書く活動」においても少しずつ正確性が上がるように、生徒の書きたい気持ちを大切にしながら、サポートしていきたい。また、単元の最後にあるプロジェクト学習への取り組みの際も、生徒の意見を反映しながら、効果的な活動になるように、グループ編成なども工夫していく。

(3) 指導観

○なぜプロジェクト型学習か？

中学校学習指導要領解説（外国語編）には、『『外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方』を確か豊かなものとする中で、学ぶことの意味と自分の生活、人生や社会、世界の在り方を主体的に結び付ける学びが実現され、学校で学ぶ内容が生きて働く力として育まれることになる』と示されており、生徒が学んだ内容と自分の生活・人生とのつながりを感じられることが、資質・能力を育てるのに大切なことであるということが明示されている。

そこで、本単元では、単元最後のプロジェクトとして、「進学を間近にしてワクワク・ドキドキしている鏡原小学校6年生に向けて、学校紹介をして安心させてあげよう！」という内容を設定している。これまでも本学級の生徒たちは「忙しいALTの先生のため

に、普段話す機会のない先生方の紹介図鑑を作っあげよう」「キンザー小学校のみんなから届いた「お正月」に関する質問に、わかりやすく答えてあげよう」という2つのプロジェクトに取り組んできている。プロジェクトを通して、「単元で学んだことを活用すると、誰かの役に立つことができる」という充実感を味わうことができていると、アンケートのコメントなどから感じている。

このため、本単元を指導するにあたっては、1学年最後のプロジェクトとして、生徒がさらなる達成感を味わえるように、次の点を十分配慮して指導を行っていく。

〔指導の工夫〕

- ① くり返し聞いたり、話したりすることで、文構造（語順）に慣れさせる。
- ② 生徒が安心して、自律的に言語活動に取り組めるように、単元の前半部分までに文構造やキーワード・新出単語などの定着をはかるための活動をたくさん設定する。
- ③ 単元のゴール（プロジェクトの内容）「誰に向けて？」「何のために？」を常に意識させるための工夫をすることで、生徒が目標達成のために自律的に学びを自己調整していくためのサポートをする。
- ④ 生徒が協働的に学べるよう、ペアワークやグループワークを多く取り入れる。

4 研究テーマと本単元の関わり

(1) 研究との関わり

<p>【研究テーマ】 「主体的に学ぶ、自律型学習者の育成」 ～プロジェクト型学習（PBL）を通して～</p>

(2) 研究方法と本単元との関わり

<p>「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」を働かせて、鏡原小6年生に安心してもらえるような、楽しい学校紹介をするという「プロジェクト型学習」に取り組ませることによって、プロジェクト達成に必要な知識・技能の獲得と定着を目指すとともに、プロジェクトの進捗状況を確認しながら、自らの学びを調整したり、プロジェクト達成のための方法を取捨選択したりするなど、主体的に学ぶ自律型学習者の育成を目指す。</p>

5 単元の評価基準

	知識・技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう人間性等
聞 く こ と	現在進行形の文構造をしっかりと理解し、写真の説明から、その状況を聞き取ることができる。		

話すこと	交流する相手に興味を持ってもらえるように、内容や構成を工夫しながら、学校紹介をすることができる。	交流する相手に興味を持ってもらえるように、内容や構成を工夫しながら、学校紹介をしようとしている。
------	--	--

(2) 単元で働かせる「見方・考え方」

<p>○交流相手に紹介したい、鏡原中の魅力や活動などは何か。</p> <p>○交流相手に興味を持ってもらうために、どんな内容をどんな構成で伝えようか。</p> <p>○活動の写真などを説明するには、どんな文法や語彙に気をつけたらよいか。</p>
--

6 単元計画（指導と評価の計画） 全13時間

(3) 単元の計画（◎記録に残す評価）

時間	上段： 本時の問い（学習課題）	評価			評価基準（評価方法）
	下段： ◎ねらい ◇学習活動	知	思	態	
1	<p>Unit 8ではどんなことを学ぶ？</p> <p>◎単元目標・学習計画と単元を通じたプロジェクト内容を理解する</p> <p>◎単元の学習内容の見通しや単元終了時にできるようになっていることのイメージを持たせる</p> <p>◇活動（Small Talk など） Topic: What did you do yesterday?</p> <p>◇ジャムボードの絵を見て、状況を説明できるかチャレンジ！</p> <p>◎プロジェクトを成し遂げるために、どんなことを学ぶ必要があるか考える。</p>	<p>知</p> <p>動の状況を確実に見届けて指導に生かすことは毎時間必ず行う。活動させているだけにならないよう十分留意する。</p>	<p>思</p> <p>記録に残す評価は行わない。ただし、ねらいに即して生徒の活</p>	<p>態</p>	<p>【教師の指導改善のためのポイント】</p> <p>単元目標・学習計画とプロジェクトを生徒ときちんと共有することで、学習の見通しを立てられるようにする。</p> <p>プロジェクトのゴールに対して、今現在の自分の学びの立ち位置を確認させるために、実際にどれだけ写真の状況が説明できるか、教師の例と見比べて比較してもらおう。</p>
2	<p>今何をしているか説明するにはどうしたらいい？</p> <p>◎ペアの友達がどの絵カードの説明をしているか、聞き取ろう</p> <p>◇帯活動（Small Talk など）</p>				<p>【知】 現在進行形の文の使い方を知っている</p> <p>【知】 絵カードの人物が今、何をしているところかを伝えることができる</p> <p>【思】 どのカードか当てるた</p>

	<p>Topic: イラストの説明にチャレンジ</p> <p>◇Speak&Listen 友達に絵カードの説明をする 絵カードの説明を聞き、A～D どの絵カードの説明か当てる</p> <p>◇Write 絵カードの人物が何をしているところか、説明文を書いてみよう 文法のポイントを自分でまとめよう！</p>	<p>記録に残す評価は行わない。ただし、ねらいに即して生徒の活動の状況を確実に見届けて指導に生かすことは毎時間必ず行う。活動させているだけにならないよう十分留意する。</p>	<p>めに、必要な情報を聞き取る</p> <p>〈観察・ワークシート・評価シート〉</p> <p>【教師の指導改善のためのポイント】 現在進行形の文に気づくように、たくさん例文を示す 口頭練習から書く活動へのスムーズな流れを促すようにする（意味順指導）</p>
3	<p>Kota たちはそれぞれ何をしている？</p> <p>◎本文を読んで、Kota たちが今何をしているのか友達に説明してみよう！！</p> <p>◇帯活動（Small Talk など） Topic: どの絵カードの説明か聞き取ろう（前時の活動）</p> <p>◇p. 120の本文を読んで、内容を理解する</p> <p>◇Kota たちがそれぞれしていることについて友達に説明する</p> <p>◇振り返り 登場人物が何をしているところか、イラストの横に説明文を書く</p>		<p>【知】教科書 p. 120を読んでKota たちがしていることについて読み取ったり、音読したりすることができる。 〈観察・ワークシート・評価シート〉</p> <p>【思】登場人物が何をしているかについてリテリングする</p> <p>【教師の指導改善のためのポイント】 的を絞って読み取ることができるよう、何について読み取ればよいのかを明確に示す。</p>
4	<p>何をしているところか質問するには？（検証授業）</p> <p>◎相手が今何をしているかについて質問するにはどうしたいかな？</p> <p>◇帯活動（Small Talk など）</p>		<p>【知】何をしているか？と尋ねる表現を使うことができる</p> <p>【思】友達を誘うために会話を続けられるように、既習事項を使う</p> <p>【主】既習事項を活用して、</p>

	<p>Topic: 登場人物がしていることを友達に説明しよう！（前時の活動）</p> <p>◇Speak ビデオ電話で、友達を遊びに誘おう！</p> <p>◇Write イラストに合うセリフ「What are you doing?」を書く振り返りをまとめる</p>			<p>会話をつなげようとしている</p> <p>【教師の指導改善のためのポイント】 電話での会話のような自由度が高い活動へのチャレンジが初めてのため、スモールステップを用いて、活動に対する難易度を下げようとする。</p>
5	<p>Kota たちは何をしているかな？</p> <p>◎本文を読んで、Kota たちが今何をしているのか友達に説明してみよう！！</p> <p>◇帯活動（Small Talk など） Topic：友達をパーティーに誘おう</p> <p>◇p.122の本文を読んで、内容を理解する。</p> <p>◇Kota たちがそれぞれしていることについて友達に説明する</p> <p>◇p.122の本文を音読する（家庭学習として）</p>	<p>記録に残す評価は行わない。ただし、ねらいに即して生徒の活動の状況を確実に見届けて指導に生かすことは毎時間必ず行う。活動させているだけにならないよう十分留意する。</p>		<p>【知】教科書 p. 122 を読んで Kota たちがしていることについて読み取ったり、音読したりすることができる。</p> <p>【思】登場人物が何をしているかリテリングする</p> <p>【教師の指導改善のためのポイント】 的を絞って読み取ることができるよう、何について読み取ればよいのかを明確に示す。新出単語やピクチャーカードを活用しながら理解を促す。</p>
6	<p>○○のように見えると感想を言うには？</p> <p>◎人やものを見て、自分の感想を言うには、どうしたらいい？</p> <p>◇帯活動（Small Talk など） Topic：P122 で、みんながそれぞれ何をしているか、友達に伝えよう（前時の活動）</p> <p>◇Listen Tina がパーティーの感想を言うので、内容を聞き取ろう</p>			<p>【知】Tina の話す内容がわかる</p> <p>【知】感想を言うときの表現がわかる</p> <p>【思】友達と会話をしながら、感想を伝え合うことができる 〈観察・ワークシート・評価シート〉</p> <p>【教師の指導改善のためのポイント】 感想の伝え方に気づかせるた</p>

	<p>◇Speak ペアになり、誕生日に必要な道具を話し合って選ぼう！</p> <p>◇Write イラストの人やものについて、自分の感想を書いてみよう</p> <p>◇振り返り</p>			<p>めにたくさん例文を出す</p>
7	<p>Tina のパーティーは成功したかな？</p> <p>◎本文を読んで、Tina のパーティーの様子を説明してみよう！</p> <p>◇帯活動 (Small Talk など) Topic: ペアになり、誕生日に必要な道具を選ぼう (前時の活動)</p> <p>◇p. 124の本文を読んで、内容を理解する。</p> <p>◇パーティーの様子について、要約して伝える</p> <p>◇Write 要約した内容を文で書いてみる</p> <p>◇p. 124の本文を音読する (家庭学習として)</p>	<p>記録に残す評価は行わない。ただし、ねらいに即して生徒の活動の状況を確実に見届けて指導に生かすことは毎時間必ず行う。活動させているだけにならないよう十分留意する。</p>		<p>【教師の指導改善のためのポイント】</p> <p>的を絞って読み取ることができるよう、何について読み取ればよいのかを明確に示す。新出単語やピクチャーカードを活用しながら理解を促す。交流相手に伝える時にどんな内容にしたら伝わりやすいか「見方・考え方」を働かせる</p>
8	<p>プロジェクトタイム①</p> <p>◎グループで役割分担をして鏡原小学校への学校紹介の内容を決めよう！</p> <p>◇帯活動 (Small Talk など) Topic: イラストの説明をグループのメンバーにしてみよう！</p> <p>◇①リーダー</p>			<p>【教師の指導改善のためのポイント】</p> <p>毎時間の振り返りの時間に、プロジェクト達成に向けての自分たちの進捗状況や、タイムマネジメント、補習的な活動が必要かどうかなど、自分たちの状況をしっかりと振り返れるような声かけ・振り返りシートの工夫 グループ全体の振り返り</p>

	<p>②情報収集係 ③スケジュールキーパー ④盛り上げ係 (チームで問題が起きた時やスケジュールがうまくいかないときなどに士気を上げる係) を各グループ決定する</p> <p>プロジェクトタイム①の振り返り</p>				<p>個人の振り返り どちらも行うことで、個々の役割がこなせているかも把握できるようにする</p>
9	<p>プロジェクトタイム②</p> <p>◎学校紹介の文とスライドを作ろう！</p> <p>◇帯活動 (Small Talk など) Topic : イラストの説明をグループのメンバーにしてみよう！</p> <p>◇プロジェクトタイム②の振り返り</p>				
10	<p>プロジェクトタイム③</p> <p>◎学校紹介の文とスライドを作ろう！</p> <p>◇帯活動 (Small Talk など) Topic : イラストの説明をグループのメンバーにしてみよう！</p> <p>◇プロジェクトタイム③の振り返り</p>				
11	<p>プロジェクトタイム④</p> <p>◎学校紹介の発表練習をしよう！</p> <p>◇Listening test 説明を聞いて、どの絵カードか選ぼう</p> <p>◇プロジェクトタイム④の振り返り</p>	◎聞			<p>【教師の指導改善のためのポイント】 お互いの作品をピア・フィードバックさせることで、他者参照ができ、次の活動に生かすことができるようにする</p>

12	プロジェクトタイム⑤		◎ 話	◎ 話	【教師の指導改善のためのポイント】 発表相手（教師）に向けて、 何度も発表してもらうこと で、交流本番に向けて、自信 をつけさせる
	◎学校紹介の発表をしよう！ ◇帯活動（Small Talk など） Topic：発表最終練習 ◇ポスターセッション形式で、発 表しよう！				
13	小中連携授業				【教師の指導改善のためのポイント】 プロジェクト全体の振り返り をしてもらうことで、授業改 善に生かす 授業内容に関する教師への評 価もしてもらうと良い プロジェクト型学習スタート にとったアンケートに毎单元 終了ごとに記入してもらい、 改善に生かす
	◎学校紹介の発表をして、小学生 と交流しよう！ ◇アイスブレイク 小学生と交流ゲーム ◇学校紹介&交流タイム ◇振り返り				

7 本時の学習【4/13】

(1) 本時のねらい

○友達にビデオ電話して、遊びに誘おう！

(2) 本時の評価基準

○友達との会話の内容を深めるにはどうしたらよいか、工夫しながら話している
【思・判・表】

○友達との会話の内容を深めるにはどうしたらよいか、工夫しながら話そうとし
ている
【学びに向かう力】

(3) 本時の授業の工夫

○生徒が即興での会話を発展させることができるように、言語材料の効果的なイ
ンプットや中間評価を行いながら、サポートする。

○ペアを変えて繰り返し言語活動を行うことで、文法事項の定着を図る。

(4) 展開

時間	学習活動	指導上の留意点 予想される生徒の学びの姿（反応等）	評価基準 評価方法
挨拶	Greeting Warm-up	・授業に参加しようとする姿勢、元気なあ いさつ	

7分	Small talk	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の活動（登場人物の状況をリテリングする）の振り返りと確認（絵カードだけを見て、説明できるか確認する） ・登場人物の状況をリテリングする 	
導入 5分	Teacher's demonstration Today's goal	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の言語活動の教師による会話モデルを聞き、会話の内容を想像する <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 「友達とビデオ電話して、遊びに誘おう！」 </div>	
展開 27分	Preparing for the activity (7min) Speaking activity (20 min)	<p>会話の流れや質問の仕方などを全体で確認する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「What are you doing?」等の表現確認 ・実際のビデオ電話の場面を想定して、タブレットの画面を見ながら、ペアで会話にチャレンジする ※スモールステップを3段階踏みながら、会話の質を高めていけるようにする。 ・ペアや役割（誘う側と誘われる側）を変えて、何度もチャレンジする ・教師が中間評価を入れて、生徒が使っていた面白い表現などをシェアし、会話の内容を深められるようにサポートする 	【思・判・表】 会話の目的を達成するために、どういふことを話すとよいか、既習事項を活用して考えながら取り組んでいる
終末 10分	Consolidation ふり返り	<ul style="list-style-type: none"> ・イラストの場面に合ったセリフを書く 「What are you doing now?」 「I'm ○○ing.」 <p>本時で発見したこと・できたこと・疑問に思ったことなどをまとめる。</p>	

8 板書計画

意味順英作文カード	Today's goal 友達にビデオ電話して、遊びに誘おう！
OREO talk card	
お助けフレーズ集 ・How do you spell? ・How do you say ○○ in English? ・Could you speak more slowly, please?	Useful expressions ・生徒から出た良い表現などを書く ・ ・ ・

VII 結果と考察

《研究仮説》の検証

「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」を働かせた「プロジェクト型学習」に取り組ませることによって、プロジェクトの進捗状況を確認しながら、自らの学びを調整したり、プロジェクト達成のための方法を取捨選択したりするなど、主体的に学ぶ自律型学習者の育成が図られるであろう。

【結果】

ここでは、研究仮説にある「授業改善の具体的な方法」を中心に述べる。また、それについては、V研究内容4「(1) プロジェクトの設定・動機付けの工夫 (2) 学びの足場かけの工夫 (3) 生徒が自ら学びを調整できるようになるための工夫 (単元計画の共有等)」について示している。

(1) プロジェクトの設定・動機づけの工夫

単元のゴールに持ってくるプロジェクトの内容を、以下の3点に留意して設定したことで、生徒が「相手意識」を持って主体的に取り組む様子が見られた。

- ①生徒の興味・関心沿っている内容か、または実生活に繋がる身近な内容か
- ②このプロジェクトを達成することで、交流相手に貢献することができる内容か
- ③生徒が「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」を働かせることができる内容か

実践①においては、伝える相手が普段から親しくしているALTの先生であったこと、その人の困り感を助けてあげられる内容だったこともあり、初めてのプロジェクトに生徒が戸惑う様子も見られたが、「自分たちが完成させなかったら、ALTの先生ががっかりするから頑張ろう」と、授業外での先生方へのインタビューなども一生懸命行う姿が見られた。

実践②では、交流相手がネイティブスピーカーである、キンザー小学校の児童たちであったことで、より真剣に英文を考えたり、日本や沖縄・宮古島のお正月について

調べたことをわかりやすく解説したりするなど、相手意識を持ってプレゼンの準備をする様子が見られた。また、プロジェクトを一度経験したことで、クラスに冬休みについてのアンケートを取って、その結果をプレゼンに活用したり、発表をクイズ形式にしたり、教科書に出てくる英文を活用しながら、お正月の伝統食について説明したりするなど、発表内容がより豊かになっていた。

実践③では、相手が小学生ということで、できるだけ分かりやすい表現を使ったり、スライドをいつも以上に工夫したりする様子が見られた。また、小学生にとって難しそうな英単語は、「interesting means 面白い」と伝えたりするなど、「見方・考え方」を駆使して表現することができていた。生徒の振り返りからも、「英語をあまりわからない相手に、わかりやすく伝えることを目標に、いつもよりたくさん工夫をした」という声がたくさん上がっていた。

以上の実践①～③の生徒の学習の様子から、プロジェクト型学習を用いた授業実践が、生徒の主体性や学習意欲の向上、また自律的に協働して学ぶ態度を育成することに効果があったと考える。

(2) 思考力・判断力・表現力を支える基盤となる、学びの足場かけの工夫

実践①において、言語材料の導入においては、ICT機器を活用し、新出文法等の使用場面がすぐに理解できるような足場かけを意識したことで、特に日本語での文法説明をしなくても、生徒たちは、言語が使用される状況や場面から想像し、初めて出会う文法にも、難しさを感じることなくすんなりと意味を理解している様子が見られた。

また、英作文指導の際、英文の構造を指導することで、生徒が英語特有の語順に慣れることができ、英語の語順の意識しながら英作文に取り組む姿が見られた。

※ (図1を毎時間黒板に掲示することで、いつでも語順が確認できるようにした)



図 1

しかし、単元末に先生紹介のスライドの完成をチェックした際、半数のグループのプレゼンにおいて、ターゲットである3人称単数のsの欠如が見られた。この課題は、授業実践の中に、生徒の知識・技能の定着を図るための足場かけが不足し、生徒は言語活動に必要な言語材料を効率良く練習することができないまま、定着が不十分な状態で言語活動を行っていたことが要因である。筆者が、言語活動やプロジェクトに必要となる、ターゲットの英文及び新出単語の定着度や、生徒の困り感をチェックしないまま言語活動を進めたため、生徒たちはどの言語材料を活用すれば、スムーズに活動が行えるのか、しっかり理解できずに戸惑っていたと思われる。

この課題を踏まえて、実践②では、新出文法の導入場面だけではなく、各授業においての言語活動に入る前の「質問の仕方や答え方」「頻出する単語等」など、知識・技能の定着のための足場かけも意識して取り組んでみた。それを行うことで、単元後

半のプロジェクトの際に、スムーズに思考力・判断力・表現力を活用できることに繋がると考えた。具体的な取り組みとして、言語の使用場面のイラストや写真を生徒に提示し、イラストのみを見た状態で、その状況を説明する英文が瞬時に頭に浮かぶかどうかをチェックした。すぐに言えていないイラストの英文は、定着が弱いものと判断し、もう一度教師が全体で確認することを毎時間の授業で繰り返した。そうすることで、ターゲットとなる英文が生徒の中に内在化され、活動において、生徒が正しい英文を練習する回数が増えた。

単元末のプロジェクト発表を見てみると、しっかりと過去形を用いてお正月の出来事を伝えることができおり、前単元の時より、知識・技能の定着率が上がった様子が見られた。今年自分がしたことを伝える場合には「過去形」を用いて「I went to a shrine」、毎年の習慣として伝える場合には、「現在形」を用いて「We go to a shrine on New Year's Day」などと、自分が意図する内容によって、使用する言語材料を使い分けるなど、しっかりと使用場面を理解していることが確認できた。

実践①・②を踏まえて、実践③でも継続して、生徒の学びの足場かけに取り組んできたが、全単元を通して、ペア・グループ学習の効果を実感することができた。教師の準備する足場かけだけではなく、ペアやグループになって言語活動に取り組むことで、友達の実似をしながら、表現を覚えて活用していく様子が見られた。

また、お互いに教え合うことや協働して目標を達成していくことを通して、英語が得意な子には、「わからない子を支えよう」という意識が芽生え、丁寧に英作文の仕方を教えたり、ヒントを与えたりしながら言語活動を行うことができていた。更に、英語学習に対する困り感が強い生徒たちにおいては、友達が支えてくれる安心感があるため、「わからない」「助けてほしい」ということを正直に伝えることができ、間違いながらも活動に積極的に参加する姿勢が見られた。

以上の様子から、ペア・グループ学習が主体的・自律的に学ぶための足場かけとしてとても有効だと言えることができると考える。また、そういった学級の支持的風土の確立が、生徒たちの心理的安全性の確保に繋がり、失敗を恐れずにチャレンジできることで、知識・技能の定着にも有効であると考えた。

(3) 生徒が自ら学びを調整できるようになるための工夫（単元計画の共有等）

自律型学習者の育成を目指すには、学ぶ内容とその目標に向かうプロセスを生徒にしっかりと共有する必要がある。単元を進める際には、プロジェクト内容及び、単元デザインシートを生徒と共有してからスタートしていた。また、タブレットを活用し、紙面ではなく、クラスルーム内でデザインシートのデータを共有することで、生徒たちがグループで確認しながら、作業を進めることができた。

また、多くの生徒が、単元末のプロジェクトを常に念頭に置きながら毎時間の授業に取り組むことで、プロジェクトに活用できる文法や語彙を意識しながら獲得することができていた。研究前には、発表までにプレゼンを仕上げられずに、授業計画を1時間増やすなどしたこともあったが、プロジェクト型学習の実践中は、どのグループも必ず期限までに発表内容を仕上げてきており、単元計画の共有には、大きな効果があったと言える。

単元計画の共有の他にも、プロジェクトを行う際のグループ分けについて、生徒た

ちから意見をもらったり、チャレンジする言語活動の内容について、生徒たちからアイデアをもらったりするなど、生徒と教師が協働して実践に取り組めるようにした。このことで、「学びの場は自分たちで創るもの」という意識が生徒に芽生え、授業作りに関する意見を率直に述べてくれるようになった。

そういった授業作りを実現するにあたって、生徒が安心して意見や考えを言えるよう、筆者は生徒の学びの結果（単に言語使用の正しさや、テストの点数）などではなく、生徒の学びのプロセスに価値づけをすることを意識して取り組んだ。また、時には授業中にネガティブな発言等があった時にも、否定するのではなく、その理由を丁寧に聞いたり、励ましたりと、生徒の全ての発言を受容的・共感的に受け止めることに努めた。その結果、生徒たちが授業に対して、率直に意見を述べたり、活動のアイデアを出したりと、生徒の主体的・自律的に学ぶ態度の育成に繋がったと考える。

単元ごとに実施するアンケートにも、「プレッシャーがなく、安心して授業に取り組める」「自分たちだけで発表内容を考えたり、英文を考えたりする力がついた」と答えている生徒が多くなった。

また、文法事項のポイントをまとめたり、振り返りを行ったりする際にも、Jamboardを活用し、他者参照しながら学ぶことで、教師の説明通りに書き写すのではなく、自分に合ったノートのまとめ方を工夫する生徒も多くなった。

※生徒の実践例（実際はカラーである）

確認クイズ! ★友達にイラストの内容を質問するには、どの英語を使えばいい?

Did you study English? Did you eat Jagariko? Did you stay up late? Did you play games?

英語で過去のことを質問するには、どんなふうに文を作ればいい?

Did you ~?

DidはDoの過去形だよ。すでに過去のことを聞いているから、単語も過去形にしなくていいよ!

今日の授業で、発見したこと: できて嬉しかったこと・疑問に思ったことは?

「Did」は「Do」の過去形だとわかった。 Did you ~? の答え方もわかった。 疑問を言ったり、答えたりできた。

次の絵カードの中の人たちが何をしているところが、説明してみよう!!

このスペースに説明を書いてみてね!

- Aya is cooking now.
- Eito is running now.
- Haruki is playing soccer now.
- Yusuke is eating snack now.
- Ryunosuke is playing baseball now.
- Nozomi and Yuna are dancing now.

今日の授業で気づいたこと (絵の説明の仕方などについて)

結局の後ろにingをつける。 主語によって、be動詞を変える。

誰が する 何を どこで いつ の順で文を作る

できて嬉しかったこと・疑問に思ったことなどをかこう☆

be動詞の後に一般動詞をつけるのはingが関係している?

【考察】

(1) 生徒の単元振り返りの分析より

①授業改善の視点や具体的な方法を明確にする前《改善前》

- クイズ・ゲームが楽しかった。
- 授業面白かった。
- 自己紹介できて良かった。 等
- ※○○が楽しかったなどの内容の浅い振り返りが多く見られた。

②授業改善の視点や具体的な方法を明確にした後《改善後》

ア: プロジェクトの設定・動機づけの工夫後の生徒の変容

- 相手のことを考えられるようになったり、英語を活用できるようになった。
- 自分たちだけでスライドを作ったり、文を考えたりする力がついた。

- 友達と協力して、伝える相手によって伝え方を工夫したり、新しく学んだことがたくさんあって、自分のためになった。
- 英語で伝え方が分からなかったことがわかるようになって、友達と交流するときもリアクションを取り入れたり、質問したりなどして、楽しく英会話ができて嬉しかった。
- 英語学習を面白いと思うことが増えた。 等

プロジェクト型学習を取り入れ、プロジェクトの設定・動機づけの工夫をすることで、生徒が「見方・考え方」を働かせて、「相手意識」を持ち、「クイズ・ゲーム」などの手法ではなく、「コミュニケーション活動」や「学びのプロセス」自体に価値を見出すことができるようになったと考える。

また、相手意識を持って、主体的に課題に取り組む生徒が増えたと、生徒の実際の writing test (思考・判断・表現及び学びに向かう人間性の評価問題) から読み取ることができる。

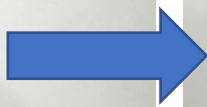
※生徒の実際の実践例

Dear James,
Hello. Did you enjoy your winter vacation?
I enjoyed winter vacation. I played UNO with my relatives. It was fun, because I have meny funny. My aunt especioll funny. She can't remember UNO's rules. So she made lot of mistakes. It was hilarious. I want to play card games with my aunt again.
By the way. Did you eat any delicious food?
I ate roast beef. It was my father cooks. And, I ate ozouni. It was my mother cooks. Which also really delicious.
How was your winter vacation?
I want to toke you and Ms. Aya in English.
Best fun.

Dear Mr. James.
Hello. Mr. James. How are you?
I hope you are fine.
I enjoyed winter vacation. And you?
I went to a shrine in Miyatojima with my cousins.
It was fun!
I visited my grandparents on New Year's Eve with my family.
We ate toshikoshi soba. It was delicious!
It's a Japanese CUSTOMS.
Did you eat traditional food?
I received New Year's gift on New Year's day. But parents took my New Year's gift. So I'm sad.
How was your winter vacation? Best wishes
(Have a nice Year!!)
Snowman

※単元スタートから単元末の変容

I went Okinawa for a baseball tournament during winter vacation
I received new year's gift



Dear James
How are you?
I enjoyed the winter vacation
I went to Okinawa because I had a baseball tournament
I ate Tosikosisoda
Did you eat Tosikosisoda?
I played Games
Did play the game?
James enjoy your winter vacation?
see you next time

イ：思考力・判断力・表現力を支える基盤となる、学びの足場かけの工夫後の生徒の変容

(アンケート項目の「できるようになって嬉しかったこと」より)

- 英文をざっと見ただけで、ある程度の内容がつかめるようになった。
- 英文が書けるようになった。学んだ英語をペアや友達にスラスラ言えるようになった。
- 英文で戸惑わずに、スラスラ書けるようになった。
- 授業で学んだ英語を使って、色々な人に内容が通じた。
- 何も見ずに英作文ができたり、会話が続けるようになった。
- 以前より、会話を続けられるようになった。
- 知らなかった単語や、文の構造が覚えられるようになった。

改善前のアンケートでは「特にない」と答えている生徒や、「be 動詞がわかった」など特定の文法事項に対してコメントしている生徒が多かったが、改善後は全体的に「書けるようになった」「読めるようになった」「英文が頭に浮かぶようになった」など、学んだ内容をしっかりと4技能において活用できていると実感している生徒が多いということがわかる。「足場かけ」を丁寧に行ったことで、知識・技能が定着し、生徒の「わかる」実感に繋がったと考える。

ウ：生徒が自ら学びを調整できるようになるための工夫（単元計画の共有等）後の生徒の変容（アンケート分析より）(表1～表8)

アンケートにおいて、学習意欲や学習に対する主体性及び自律性に関して問う項目を、11月と3月の結果を比較してみた。

表 1

あなたは英語を学ぶことが好きですか？	11月	3月
①好き	53.7%	60.5%
②どちらかと言えば好き	34.1%	32.3%
③どちらかと言えば好きじゃない	9.8%	7.2%
④好きじゃない	2.4%	0.0%

表 3

あなたは単元の目標達成に向けて、自分なりの目標を立てることができていますか？	11月	3月
①できている	19.5%	19.6%
②どちらかと言えばできている	36.6%	54.1%
③どちらかと言えばできていない	31.7%	19.1%
④できていない	12.2%	7.2%

表 5

あなたは単元の目標達成に向けて、自分の改善点などを見つけることができていますか？	11月	3月
①できている	26.8%	36.2%
②どちらかと言えばできている	29.3%	49.1%
③どちらかと言えばできていない	31.7%	14.7%
④できていない	12.2%	0.0%

表 2

あなたは普段の授業で、単元の目標を意識しながら活動に取り組んでいますか？	11月	3月
①毎時間意識して取り組んでいる	61.0%	19.6%
②時々意識して取り組んでいる	29.3%	54.3%
③あまり意識して取り組んでいない	4.9%	23.8%
④全然意識して取り組んでいない	4.9%	2.3%

表 4

あなたは単元の目標達成に向けて、自分なりの学習の見通しを持つことができていますか？	11月	3月
①できている	17.1%	26.8%
②どちらかと言えばできている	46.3%	49.7%
③どちらかと言えばできていない	29.3%	20.9%
④できていない	7.3%	2.6%

表 6

あなたは単元の目標達成に向けて、自分なりに学習の進み具合を把握することができていますか？	11月	3月
①できている	24.4%	36.3%
②どちらかと言えばできている	41.5%	47.3%
③どちらかと言えばできていない	24.4%	13.9%
④できていない	9.8%	2.5%

表 7

あなたは単元の目標達成に向けて、自分なり学習法を考えたり、試したりすることができていますか？	11月	3月
①できている	29.3%	24.3%
②どちらかと言えばできている	41.5%	49.8%
③どちらかと言えばできていない	19.5%	25.9%
④できていない	9.8%	0.0%

表 1 の分析：英語を学ぶことが「好き」と答えている生徒の割合が増えており、好きな理由についても、11月は「タブレットをよく使うから」などの理由が多いのに対して、3月では「どんどん英語が分かって嬉しい」「相手のために工夫する発表が楽しい」などと書いており、学ぶプロセスを楽しんでいる様子が伺えた。

表 2 の分析：この質問に対しては、「できている」と答えている生徒が大幅に減っている。しかし、実際の教師の見取りとしては、11月の段階で、単元のゴールをしっかりと答えられる生徒は少なく、「できている」が61%という生徒の回答に、実情との差を感じていた。3月になって、「できている」と答えた生徒の割合が減っていることが、逆に生徒の「自己分析力」、「メタ認知力」が上がったことが要因だと捉えることができる。と考える。

表 3 の分析：毎回のプロジェクトにおいて、「グループ目標」だけでなく、「個人の目標」もしっかりと考えてから取り組んでいたため、「できている」「どちらかと言えばできている」と回答している生徒の割合がトータルで17.6%アップしている。と考える。また「できていない」と答えた生徒の割合も減っている。

表 4 の分析：単元計画をオープンにし、生徒と共有してから学習を進めたことで、生徒が見通しを持ちやすくなったと考える。見通しを持つことが「できている」「どちらかと言えばできている」と回答している生徒が増え、「できていない」と回答している生徒は減っている。

表 5 の分析：この項目では、「できていない」と回答する生徒が0%になった。毎回の振り返りをしっかりと行っていたことと、グループで協働して、お互いにできることも、できないこともオープンにし、アドバイスし合いながら学習を進められたことで、自分を客観的に見つめることができたのではないかと考える。

表 6 の分析：この項目では、進み具合を「把握できている」という生徒の割合が11.9%アップし、「できていない」という生徒数も減少していた。毎回、スケジュールと照らし合わせながらプロジェクトに取り組んだことで、学習の進捗を確認しながら進める習慣がついたと考える。

表 7 の分析：この項目での成果は、自分なりの学習法を考えたり試したりすることが「できない」と答えた生徒が0%になったことである。プロジェクト達成までプロセスにおいて、教師が細かい指示はせず、生徒の選択にゆだねたことで、自分なりに色々な方法にチャレンジすることができたのが、この結果の要因である。と考える。

表 8 の分析：この項目が、生徒たちの最も伸びた項目である。毎単元のプロジェクトを通して、生徒たちがグループメンバーや、また他のグループ、時にはクラスをまたいでの学び合いなどを行っている様子が見られた。「英語学習に対する困り感」を抱えている子でも、得意な子のサポートを受けて課題を達成することができた。また、アンケートでは、「R君が最初何もわからなかったのに、最後にはスラスラと英

表 8

あなたは単元の目標達成に向けて、友達と協力して課題の解決方法を考えることができていますか？	11月	3月
①できている	36.6%	45.3%
②どちらかと言えばできている	41.5%	45.0%
③どちらかと言えばできていない	17.1%	9.7%
④できていない	4.9%	0.0%

語を発表できていて、「驚いたし楽しかった」というコメントも見られ、英語が得意な生徒も、サポート側に回ることで、更に達成感を得られた。協働的な学びを通して、多くの生徒が支え合いながら、楽しんで課題に取り組む様子が見られたのが、本研究の大きな成果であったと感じる。

(2) (1) の考察より

本研究において、「プロジェクトの設定・動機づけの工夫」、「思考力・判断力・表現力を支える基盤となる、学びの足場かけの工夫」、「生徒が自ら学びを調整できるようになるための工夫」による、主体的に学ぶ自律型学習者の育成を目指した授業改善を行ってきた。その中で、「教師の指導観の転換の重要性」及び「生徒の学ぶ力を信じ、教師と生徒が一体となって学びの場を創造する大切さや楽しさ」を実感した。

また、実践を通して、生徒が協働的に学ぶ中で、仲間との協力や支え合いを通して、知識・技能の定着を図ったり、主体的・自律的に学ぶ楽しさに触れ、「見方・考え方」を働かせながら、「相手意識」を持って、課題に積極的に取り組む姿を見ることができた。それには何よりも、教室で絶対に否定されず、安心して意見を言い合うことのできる、教師と生徒、あるいは生徒同士の信頼関係が必須であるということ、強く再認識できた。

以上のことから、今回の「プロジェクト型学習」を取り入れた授業改善の視点や具体的な方法は、主体的に学ぶ自律型学習者の育成するために、有効な手段であったと言える。今後も、教育者として、目の前の生徒の学ぶ力を信じて、いつでも個に応じたサポートをすることができるよう、自己の人間性を高めながら、本研究で学んだことを、今後の授業実践に生かしていきたいと考える。

VIII 成果と課題

1 成果

- (1) 生徒の興味・関心や実生活との関連性があり、生徒の学びが他者貢献に繋がるような内容のプロジェクトの設定・動機づけの工夫をすることにより、生徒が「見方・考え方」を働かせ、「相手意識」を持ちながら、学習活動に主体的に取り組むようになり、学びのプロセスを楽しむようになった。
- (2) 思考力・判断力・表現力を支える基盤となる、学びの足場かけの工夫により、知識・技能の定着度が上がり、生徒の「わかる・できる」実感に繋がった。
- (3) 生徒が自ら学びを調整できるようになるための工夫により、生徒が主体的にアイデアを出しながら活動に取り組んだり、タイムマネジメントを意識しながら、課題に取り組む力がついた。また、教師と生徒が一体となって、学びのプロセスを創造することができるようになり、お互いの信頼関係もより強いものになった。

2 課題

- (1) 筆者が定義する「自律型学習者」の育成という点においては、主体的に学ぶ態度が育ったと見て取れるものの、生徒の実態と照らし合わせると、「学びの自己調整力」という点において、現時点では「自分の学びの様子を客観的に見つめられるよ

うになってきた」という段階にあり、十分に時間をかけてサポートしていく必要がある。

- (2) 失敗を恐れずに安心して活動に取り組むことができるようになった一方で、アンケートの結果を見ると、まだ「書く活動」に対する苦手意識を持つ生徒が多く、次のステップとして、「書く活動」に対する手立ての工夫が求められる。
- (3) 生徒の学習意欲を維持するためにも、プロジェクトの交流相手や内容がマンネリ化しないように、教師のコネクションやアイデアの引き出しを増やす必要がある。

IX 参考文献

- 1 文部科学省『中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説外国語編』 東洋出版社 2018
- 2 山本崇雄『「教えない授業」の始め方』 株式会社アルク 2019
- 3 直山木綿子, 久保野雅史
『“脳働”的な英語学習のすすめ「プロ教師」に学ぶ真のアクティブラーニング』 開隆堂 2017
- 4 スージー・ボス, ジョン・ラーマー
『プロジェクト学習とは 地域や世界につながる教室』 株式会社新評論 2021
- 5 奥村高明, 有元典文, 阿部慶加
『コミュニティ・オブ・クリエイティビティ ひらめきの生まれるところ』 日本文教出版 2022
- 6 ウェンディ・L・オストロフ
『「おさるのジョージ」を教室で実現 好奇心を呼び起こせ!』 株式会社新評論 2020
- 7 田地野彰 『「意味順」式 イラストと図解でパッとわかる 英文法図鑑』 株式会社 KADOKAWA 2021
- 8 サラ・マーサー, ゴルタン・ドルニエイ
『外国語学習者エンゲージメント 主体的学びを引き出す英語授業』 株式会社アルク 2022
- 9 奈須正裕 『「資質・能力」と学びのメカニズム』 東洋館出版社 2017
- 10 奈須正裕 『個別最適な学びと協働的な学び』 東洋館出版社 2021